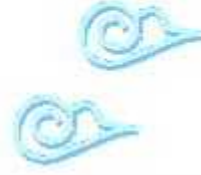




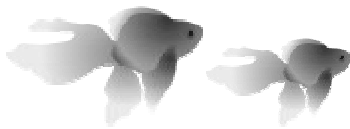
潮風 しおかぜ 2号

神戸市看護大学短期大学部同窓会
(コスモス会) 会報
平成15年 夏発行



会長挨拶

同窓会会長(1看7期) 松浦由紀子
遅い梅雨が先日明けたと思ったら、早や9月が目の前。とはいえ、まだまだ暑い日がつづきますが、会員の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。神戸市看護大学短期大学部同窓会報しおかぜ第2号をお届けいたします。すでにお聞き及びとは思いますが、母校である短期大学部が平成17年度をもって閉学となります。本会といたしましても大きな変革を迫られており、会員の皆様に現状をお知らせする必要があり、会報の発行となりました。内容は、閉学の情報等だけでなく懐かしい会員の声も盛り込んで楽しい読み物となるよう役員一同心をこめて編集いたしました。ぜひじっくりごらんください。またこれを機会に同窓会に関心をもっていただけたら幸いです。短いですが、これをもちまして会報発行のご挨拶とさせていただきます。



閉学の経緯

神戸市看護大学短期大学部の閉学については新聞等ニュースで既にご存知の方もおられるかと思いますが、簡単にその経緯をご説明いたします。神戸市の看護職員の養成については、看護職員の需給状況が緩和しつつあることや、医療の高度化に伴ってより高度な看護技術習得のため4年制大学への志望・進学が増加してきていること、少子化によって学生数の減少がある等々の理由

により、平成13年神戸市の要請を受けて設置された「神戸市における看護職員の養成に関する検討会」において検討が始められました。その結果、平成14年1月に検討会から答申が出され、同年3月に市議会で可決されました。当同窓会には、5月9日に書面で通達がありました。以下、原文を抜粋して掲載いたします。

『学生募集停止について(お知らせ)。かねてより検討を行っておりました「神戸市における看護職員の養成に関する今後のあり方について」の答申が・・神戸市長に提出されました。この答申の中で「神戸市の看護職員の養成については神戸市看護大学と同短期大学部を一本化して、今後は神戸市看護大学で看護職員の養成を行うこととし、速やかに同短期大学部の閉校に向けた手続きを進めるべきである。」との内容が盛り込まれています。神戸市として、この答申をもとに検討を重ね、平成14年3月に平成15年度から学生募集の停止を決定いたしました。・・ここに学生募集の停止をお知らせいたしますとともに、今後とも本学運営につきまして従来と変わらぬご協力をあらためてお願い申し上げます。』

看護系短期大学部の閉学は神戸市だけに限らず全国的な傾向であり、看護師の教育過程は短大から4年制大学へと変化しています。一卒業生として母校の閉学は非常に残念ですが、これも時代の流れかもしれません。なお検討会の答申内容である「神戸市における看護職員の養成に関する今後のあり方」については神戸市のホームページ(<http://www.city.kobe.jp/>)で情報公開されております。詳しくは、そちらをご参照ください。

同窓会の現状

神戸市看護大学短期大学部は平成 10 年度より第二看護学科の募集を停止し、1 学年の募集人数も 100 名から 80 名に減員となりました。平成 15 年度より入学生の募集停止となり、今年は 2 学年と 3 学年だけの計 156 名となっております。そして平成 17 年 3 月に最後の学生の卒業をもって、閉学となる予定です。

閉学後の同窓会の存続には大きな問題をいくつも抱えています。1 つは母校を失い活動拠点がなくなるということです。閉学後の短期大学の跡地がどのように使用されるかは未定ですが、総会のとりのまとめや会費の管理なども含め、今後の活動拠点をどこにおくかはこれから検討していかなければならない課題です。

2 つ目の問題は同窓会運営費です。本会は永久会費として卒業時に同窓会費を納めているため、あと 2 年で同窓会の収入源が断たれ、その後は寄付金のみでの運営を迫られているという状況にあります。現在、200 万円ほどの繰越金がありますが、2000 名を超える同窓会員に対する会報や総会のお知らせなどの通信費は 1 回に 60 万円ほどを必要とします。総会は会費制にするとしても会員への通信を 3~4 回ただけで同窓会運営費は底をつきます。

3 つ目は、運営に関することです。役員は今まで短期大学部に在職する者が主に選出されて運営しています。現在は総会の開催も役員の任期も 2 年毎と会則にありますが、閉学後は役員の選出や任期、総会の開催頻度などが 2 年毎では開催困難ではないかという意見もあり、会則改正も含めて話し合い、平成 17 年の総会で皆様の承認を得る必要があります。

これらのことから、活動拠点は看護大学学内に設けてもらえないか現在申し入れている所です。運営については大学の同窓会と統一を…という声もあります。しかし大学の同窓会会費は 3 万円で、短期大学との会費（8 千円）とは格差があります。また、歴史をもつ短期大学として独自で存

続したいとの声など様々で、会員皆様のご意見を集約しているところです。

その他の検討課題としては、閉学記念行事に関する事です。閉学に伴い、閉学式が卒業式に引き続き短大で開催される予定です。その後、同窓会で母校の最後を飾り心に残る閉学記念パーティを行う予定にしています。最後の卒業生を多くの同窓生で送りたいのですが、これまでの総会の参加状況を考えると不安も残り、できるだけ会員皆様に参加して頂けるよう、時間的な配慮もしたいと考えています。次回の会報（平成 16 年 11~12 月頃）で詳細をお知らせし、出欠等を確認したいと思います。

他にも、まだ予測できていない問題があるのではないかと考えています。

これらの状況から、同窓会は多くの検討課題を抱えていることをお伝えしたいと思います。短期大学部でも閉学対策委員会を立ち上げ、その中に同窓会役員も加わっていますが、同窓会の運営については、やはり同窓会員から声をあげていかなければ、交渉も成立していきません。現在、短期大学の卒業生でもある教員が主となり、同窓会役員を務めさせて頂いておりますが、7 名で今後の同窓会のあり方を検討するには限界があります。

メールや FAX、はがきなどどのような方法でも結構です。ぜひ、会員一人一人の声で抛り所となる私たちの同窓会をなくさないために、一致団結して閉学の危機を乗り越えたいと思っております。どうぞご協力をお願いいたします。

ご意見をお待ちしています！

- * 今後の同窓会の運営について
 - * 大学との合併について
 - * 閉学記念行事について
- その他同窓会に関する事何でも！

平成 14 年度 同窓会総会 報告

於:平成 15 年 3 月 1 日(土) 13:00~14:30

神戸市看護大学短期大学部 205 号室

1. 会長挨拶
2. 役員ならびに出席者の挨拶
3. 議長選出...松浦会長
4. 平成 13・14 年度事業報告・同会計報告
承認事項
・母校行事の卒業式への献花や 20 周年記念行事への寄付
・閉学に伴い会員の把握のための同窓会名簿作成
5. 平成 15・16 年度事業計画・同予算(案)
承認事項
・母校行事の卒業式への献花や閉学に伴う行事(内容未定)など
6. 閉学に伴う行事、今後の同窓会活動について
ご出席の方々から色々ご意見を頂きました。
詳細については、“現状”をご覧ください。
7. その他
新役員、書記に服部素子さんが承認されました。

卒業生からの近況報告

看護の楽しさを知ったのは卒後 12 年目

第 1 看護学科 1 期生 濱本カナコ

看護師になり 20 年目を迎えています。

看護短大を優秀な成績で卒業はできませんでしたが、今では看護にはまった日々を送っています。看護にはまったきっかけは摂食・嚥下障害患者さんと出会ったことに始まります。現在行っている看護が根拠に基づいたものなのか疑問に思ったことが私の看護魂に火をつけたようです。研修に 4 週間出かけ目から鱗がポロリとこぼれ落ち、11 年間ただぼんやり日々の看護業務を行っていた私から卒業することができました。

いつどんなことがきっかけで看護の楽しさに出会えるかはわかりません。自分を高めることって、日常にころがっていることなんだと思います。今思えば高橋令子先生の「かゆいところに手がとどく」これが原点なんだと短大時代に感じるることができたら、もっと早くに看護の楽しさを知ることになっただろうと思います。ちょっと悔しいです。現在、西神戸医療センターの神経内科のある混合病棟の看護師長として頑張っています。これから先どんな看護ができるか、そしてどんな患者さんと出会えるか楽しみです。そして、看護を一緒に語れる看護師

との出会いを楽しみにしています。最後に中野悦子先生に感謝の一言短大を辞めたいと相談した時「卒業だけはしなさい。それから先のことはまた考えたらいいのよ。」と言って頂いたおかげで今の私があります。本当にありがとうございました。



かゆいところに手の届く看護

第 1 看護学科 1 期生 山田秀恵 (旧姓 藤井)

これが短大を卒業し、私の心に印象深く残っている言葉です。学生時代、看護することの意味も難しさもわからず、あらゆる事に興味が湧き、『自分は看護職に向いているのだろうか...違う生き方もあるのではないか...』と迷うこともありました。早いもので、卒業してからもう 20 年。今は二足のわらじを履く形で、仕事をしていま

す。ひとつは、伯父とともに営むペンションでお客様をお迎えし、大切な時間を豊かに過ごすお手伝いをさせていただく仕事です。もう一つは病院勤務の看護師としての仕事です。全く異なった職種のようにですが、人と関わる仕事であり、そこを訪れる人々は日常生活と異なる場所にある期待をもって訪れるという点で共通するものがあります。ペンションの仕事では、お客様と信頼関係が築かれると、「実は今回が最後の家族旅行になります」と苦しい胸のうちを話されることもあります。日本中を歌いながらの旅や、退職される方を労う旅もあります。夏休みのたびに成長した子ども達に会えることも楽しみです。お客様の持つ「ある期待」がどういうものか感じとれるよう、いつも心を「OPEN」にしておくことが大切だと思います。看護職においては、患者さんやご家族の方の持つ医療への期待を受けとめながら、『今、この人に何が必要なのか。看護師として何ができるのか』と考えたとき、心の中に「かゆいところに手の届く看護」という教えが湧き上がってくるのを感じます。



「閉学」の知らせを聞き、すぐには信じられず、本当に残念でなりません。と同時に、その時看護職に就いていない自分に本意でないものを感じ、母校を失うというショックが、もう一度看護職へという気持ちにつながりました。短大は、私の生き方のルーツ（源）であり、今回の「閉学」という現実が、それをはっきりと気付かせてくれました。おそらく、多くの卒業生の方々が同様の事を感じておられると思います。そして、これからも皆さんが短大で学んだということを誇りに、ご活躍されますよう心からお祈りしています。



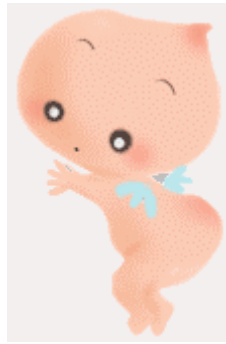
はじめの1歩

第1看護学科11期生 田中年恵 (旧姓 山本)

最近、私は母になりました。出産し育児をして気がついたことは、恐い事件が多い殺伐とした世の中ですが、親切な人がたくさんいるということです。おなかの大きな私に席を譲ってくれる人や駅の階段でベビーカーを持ちましょうかと声をかけてくれる人。子どもを見て「かわいいね～」とおまけをしてくれるパン屋さん。大人になってから、こんなに街で声を掛けられ、知らない人に助けられた経験ははじめてでした。感謝の気持ちとともに、ひとりで頑張らなくてもいいんだ、みんなが助けてくれるんだと、とても安心しました。

人生のなかで、経験する嬉しいことも、悲しいことも看護師としての自分に深みというか、味を与えてくれるように感じます。母になった私のこれからの看護が楽しみです。

短大が閉学と聞き、在学中のことが懐かしく思い出されます。仕上がらないレポート、ベッドの並んだ実習室、個性的な先生方、若かった自分……。看護の道の「はじめの1歩」を踏み出した短大で学んだことは、今でも私の大切な宝物です。



第1看護学科18期生 桜井久美子

短大を卒業してからはや2年が経ってしまいました。短大での思い出を振り返ると学年全体の仲が良く、皆で励まし合いながら実習を乗り越えたなあと思います。在学中は時間に追われる毎日で、「辛い」と思っていた実習が今となってはいい思い出です。

私は今、西市民病院の11階病棟で勤務をしています。在宅支援センターとして、患者さんの「家で生活がしたい」という目標に向かい、患者さん・ご家族の笑顔を見ると看護師という仕事を選んでよかったなあと思います。今年からプリセプターの役割を担い、まだまだ大変なことが多いですが、時々学生の頃の友人と連絡をとり、プライベートな時間を楽しむことでリフレッシュしています。

短大時代の思い出

第2看護学科6期生 佐藤琴美 (旧姓 阪井)

卒業して15年が経つ。たった15年なのに、あの頃のみんなの家はワンルームマンションではなくて、下宿(共同トイレ、風呂なし)だった。(私の知る人だけかもしれないが...) 貧乏学生も多く、プールの授業はお風呂替わりだった。また、プールの帽子がないからといって、ナイトキャップをかぶってくる子もいた。おかしくて、でも名案だなあと思った。あまり勉強した記憶がないのは、あまり勉強しなかったのだと思う。そんな私が、今もこうして看護師をしている。3年前にWOC認定看護師の資格を取り、院内を中心に褥瘡・ストーマ・失禁ケアに携わっている。ストーマ外来においては、1対1のやりとりで、即座に解決策を要求される。頭を抱え、疲れ果ててしまうこともしばしばある。それでも、「よくなりました」の一言でうれしくなり、またやる気になる。患者さんを支える仕事でありながら、患者さんに支えられ、患者さんから学んでいる。不思議で魅力的な仕事だと思う。これからも患者さんとの出会いを大切に、がんばっていききたい。

教えていただいた大事なこと

第2看護学科17期生 井上志乃

第2看護学科最後の卒業生として巣立って数年、現在私は、児童数1120人の大規模な小学校で養護教諭をしています。

医療界と教育界、働く現場は違いますが、子どもたち一人ひとりのよりよい成長・発達を願う気持ちの根本は同じではないかと思えます。病院実習で何度も繰り返しご指導いただいた『対象理解』、ここで、対象を患者さんではなく一人の人間としてみることを教えていただきました。一人の対象について、多角的な視点から情報を収集・分析し、その人にどうなってほしいのかを常に考えて支援するというこの考え方が、今、私の保健室経営の基本になっています。

毎日、休み時間という限られた時間に約40人の児童が来室する中で、一人ひとり丁寧に接することは時間的に難しいのですが、その中で生活習慣など様々な健康課題が見えてきます。この子どもたちが生涯に渡って健康でよりよい生活を送るために、今どんな支援が必要なのかを常に考えながら、子どもたちの笑顔に囲まれてこれからも楽しく働いていきたいと思えます。

高橋令子先生、フローレンス・ナイチンゲール記章を受章！

本学の名誉教授、高橋令子先生が看護師の最高栄誉である「フローレンス・ナイチンゲール記章」を受章されました！高橋先生は戦後の看護教育に尽力をつくされ、現在につづく看護教育の基礎を築かれました。その功績が認められ今回の受章となりました。看護界のノーベル賞ともいうべき偉大な賞を先生が受章されたことは、短期大学の卒業生として本当にうれしく、そして誇らしく感じます。『かゆいところに手が届く』先生のうたわれる患者の立場を尊重した看護を胸に、私達もこの道を行きましょう！



高橋令子先生をかこんでお祝いしましょう！

詳細は未定ですが、お食事会を計画中です。先生をかこんで、共に喜びを分かち合いませんか？皆様お誘い合わせの上、ふるってご参加下さい。

参加希望の方は9月5日(金)までに、同窓会までご連絡下さい(ハガキ・TEL・e-mail・FAXなどどのような連絡方法でも可)。詳細は、後日連絡します。

1. 日 時 : 平成15年10月16日(木)午後6時~8時

2. 場 所 : 三宮周辺(未定)

3. 会 費 : 7,000円~8,000円の予定

*是非、高橋先生へのお祝いのメッセージもお寄せ下さい(e-mail、FAXその他どんな形式でもOKです)

編集後記

同窓会役員になって初めて会報を作成し、皆様に送らせていただきました。

初めは、閉学が決まったからといっても、何をすべきか、どのように活動していけば良いのかというのが分からず、何もできなかつたのが正直なところです。しかし、在学生や同窓生から「淋しい」という声を多く聞きました。また、今後の同窓会がどうなるのか心配という質問も寄せられました。神戸市や学内では閉学に向かって動き出していますが、同窓会を存続し続けることで、短大の足跡を残し、帰る場ができるのではないかと同窓会としては考えました。そのためには同窓生の皆様に同窓会の現状をお伝えし、少しでも同窓会に関心をもっていただき、閉学記念行事や閉学後の活動に対するご意見をも頂きたいと考え、会報を作成しました。平成17年に開催予定となります、母校で行うことができる最後の総会と閉学記念行事で皆様にお会いできる時を楽しみにしています。

(み)



役員紹介

後列：左より太田(会計監査) 伊藤(会計)
西浦(渉外) 服部(書記) 小西(会員)

前列：左より三谷(副会長) 松浦(会長)
藤原(会計監査)

発行：神戸市看護大学短期大学部同窓会

〒650-0046

神戸市中央区港島中町4-6 神戸市看護大学短期大学部内

078-302-6317 fax:078-302-2181

e-mail: dosokai@kobe-cjcn.ac.jp